

## ●地蔵川改修の経緯

地蔵川は、八田川と内津川に挟まれた春日井市の丘陵台地に源を発し、庄内川とほぼ平行に西方向に流下し、八田川と立体交差したのち新地蔵川と名を変え、新川に流入する河川延長約10.1km、流域面積約10.1km<sup>2</sup>の一級河川です。

年代	経緯
昭和20年代以前	地蔵川は、かつて庄内川へ直接流入していたが、洪水時には庄内川のバックウォーターに圧迫され排水が困難となっていた。
昭和27～38年	『地蔵川の排水先を、庄内川から新川に変更』 八田川を伏せ越して名古屋市区を貫流する新水路として、新地蔵川を開削した。
昭和40年代以降	流域一帯で、急激に市街化が進展した。
昭和55年	『庄内川水系全体計画の変更』 市街化の進展に対応するため庄内川水系全体計画が見直され、その結果、内津川放水路・地蔵川放水路を計画した。
平成3年	台風18号による豪雨で内津川が破堤し、地蔵川沿川などで床上浸水1,051棟の甚大な浸水被害が発生した。
平成9年	『内津川放水路を整備』 内津川の破堤氾濫に対する緊急整備として、内津川と庄内川を結ぶ放水路を整備した。
平成12年	東海豪雨により、八田川を含む庄内川上流圏域で床上浸水175棟の浸水被害が発生した。
平成21年	『地蔵川放水路を整備』 地蔵川上流の排水改善のため、内津川を経由して庄内川とを結ぶ放水路を整備した。
平成23年	台風15号による豪雨で八田川と地蔵川の交差点付近で床上浸水217戸(水害統計時は99戸)の浸水被害が発生した。
平成26年	『庄内川上流圏域河川整備計画を策定、新川圏域河川整備計画を一部変更』 地蔵川放水路の下流で計画流量155m <sup>3</sup> /s(年超過確率1/10)に不足する流量99m <sup>3</sup> /sを、庄内川に54m <sup>3</sup> /s、八田川に45m <sup>3</sup> /s排水する計画を策定した。
令和5年	『地蔵川排水機場を整備』 床上浸水対策として25m <sup>3</sup> /sの排水機場の整備を完了した。



平成23年9月台風15号豪雨による八田川越水の様子



平成23年9月台風15号豪雨による地藏川溢水の様子

## ●建設の経過と工事費

- 平成25年 庄内川上流圏域河川整備計画策定
- 平成26年 用地買収着手
- 令和元年～ 排水機場本体工(一期工)着手
- 令和2年～ 吐出樋門工、吐出水槽工着手
- 令和3年～ 排水機場本体工(二期工)、  
建築工(一期工)、機械工・電気工着手
- 令和4年～ 3月 用地買収完了  
建築工(二期工)、前池工着手
- 令和5年 地藏川排水機場完成

工事等名称	工事費(百万円)
本体工(土木)	1,053
建築工	445
機械設備工	1,696
電気設備工	452
除塵機工	315
樋門・吐出水槽工	555
前池・場内設備工	472
<b>計</b>	<b>4,988</b>

※R5.3時点

## ●運転操作



エンジン



除塵機

排水機場は、非常駐の管理のため運転操作に遅延が生じないように春日井市勝西浄化センターに遠隔監視端末を設置する他、自動配信の電子メールによる参集案内機能など、運転操作を支援する機能を備えています。

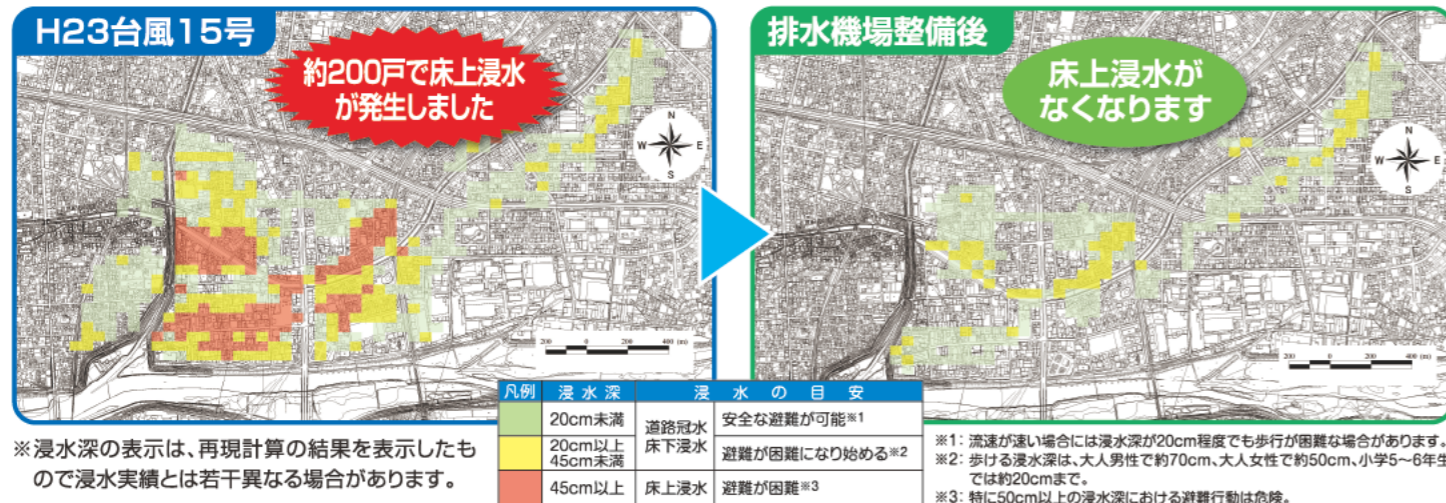


運転操作室

## ●地蔵川排水機場の整備効果

平成23年9月19日から21日にかけて庄内川中上流域を中心に台風15号による強い雨(時間最大雨量51mm、総雨量203mm)により庄内川は東海豪雨を上回る出水となり、そのバックウォーターにより八田川で越水が生じ、これと立体交差する地蔵川の溢水と合わせて両河川の交差点付近で床上浸水217戸(痕跡調査)等の浸水被害が生じました。

国から床上浸水対策特別緊急事業による支援を受け、庄内川と同規模堤防(バック堤)と地蔵川排水機場を新たに整備することにより平成23年9月台風15号豪雨と同規模の洪水における床上浸水の解消が期待されます。



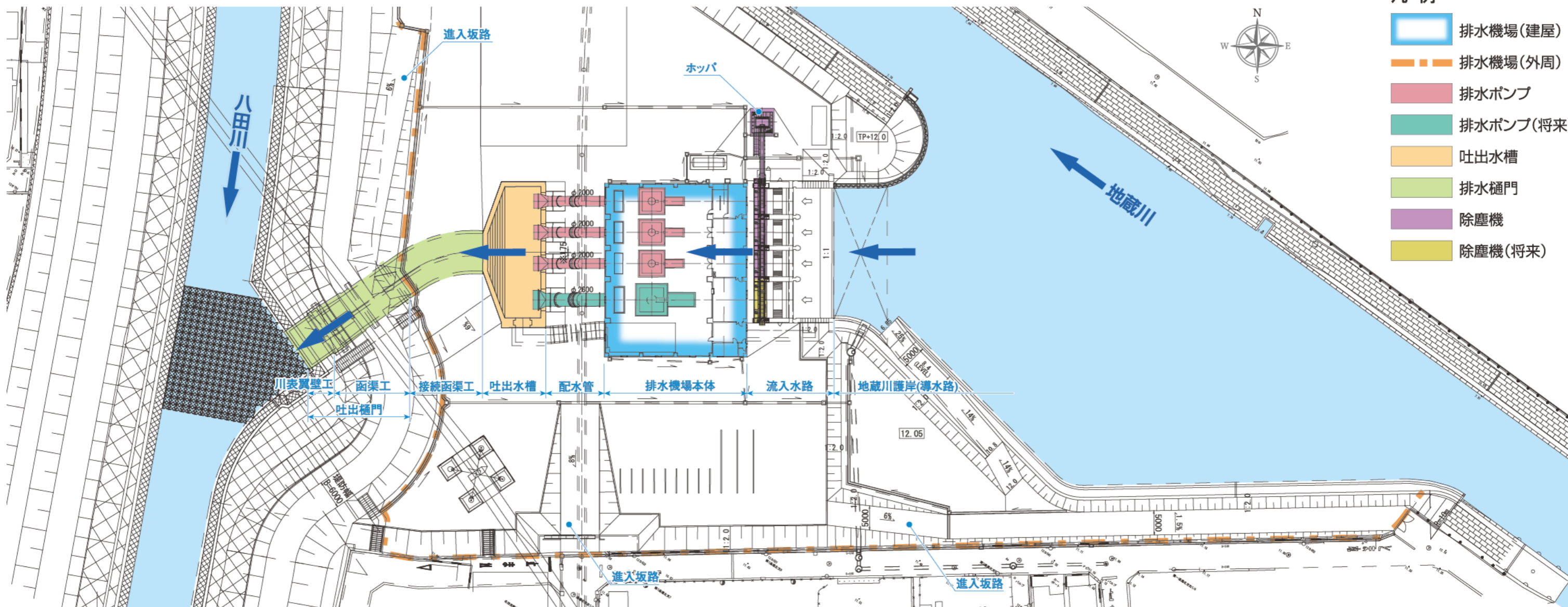
### ●位置図



愛知県尾張建設事務所

〒460-0001 名古屋市中区三の丸2-6-1  
TEL.052-961-7211(代表)  
FAX.052-961-7863

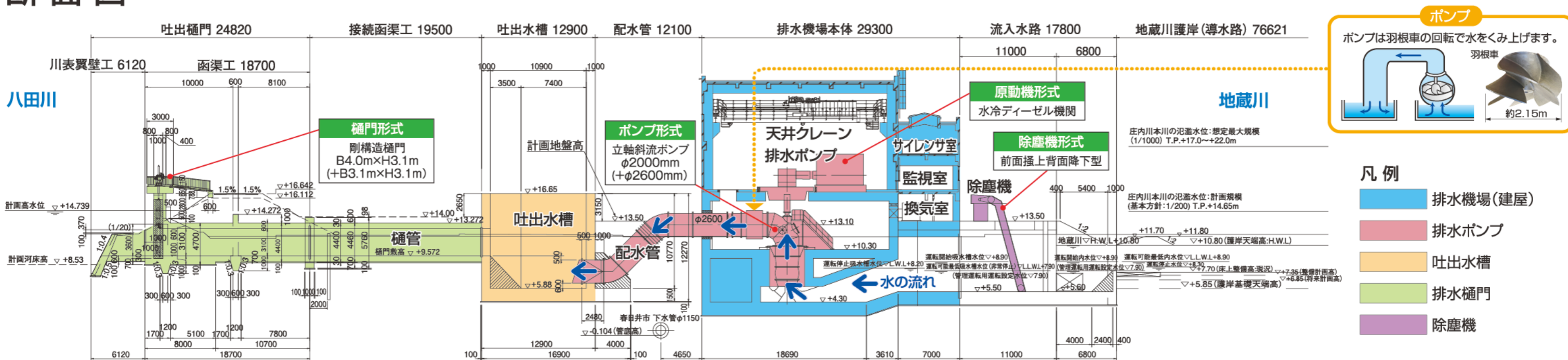
# 平面図



## 凡例

- 排水機場(建屋)
- 排水機場(外周)
- 排水ポンプ
- 排水ポンプ(将来)
- 吐出水槽
- 排水樋門
- 除塵機
- 除塵機(将来)

# 断面図



## 凡例

- 排水機場(建屋)
- 排水ポンプ
- 吐出水槽
- 排水樋門
- 除塵機